



発行所
山口県小学校長会
代表者 山本晃久
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎ 083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

平成二十六年度を振り返って



山口県小学校長会 副会長 田 中 邦 明

一 はじめに

全国連合小学校長会との緊密な連携のもと、平成二十七年の本県開催予定の第六十七回全連小研究協議会山口大会に向けて、準備や研究活動を着実に推進するための組織力を高める大事な一年間として、平成二十六年山口県小学校長会がスタートした。

今年度は、山本晃久新会長のもとでの十五支部、三百七校の船出であった。昨年度と比べ七校の減少である。

五月に開催された第六十六回総会並びに春季教育研究大会では、昨年度に引き続き「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を高くもち 未来に向かって 共にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」を研修主題・副主題とした。また、本会から五領域十三分科会に分かれて実践的研究を進めており、全連小山口大会の成功に向けて県小学校長会会員の

意識の高まりを感じたところである。

さらに、本年度理事会における情報交換の基本テーマを、昨年度同様「先見性のある学校経営」、年間テーマを「地域と学校の連携を高める校長のリーダーシップ」とし、支部の校長先生方の経営力向上に寄与できるよう取り組んできた。これらの活動から今年度の重点的な取組を振り返ってみたい。

二 地域とともに伸びていく学校づくりの現状と課題

学校と地域社会等との協働により、人々や社会、自然等の環境と関わる教育を推進し、学校の枠を超えた教育活動にも積極的に取り組むことが求められているのは既に周知のとおりである。七月に開催した第三回理事会では光市立浅江小学校の吉村校長先生に事例発表をお願いし、その後グループに分かれて現状と課題について協議した。課

題として挙げられたのは、まずコーディネーターの人選及び配置の問題、そして経費にかかる問題であった。また、コミュニティ・スクールの三つの機能である「学校支援」「学校経営」「地域貢献」のうち「地域貢献」に関する具体的取組を今後どう進めていくかも課題として残ったが、先進校の取組は大いに参考になった。

三 新たな課題と地域協育ネットと学力向上

十月に開催した第四回理事会では、県教委から社会教育・文化財課の阿波主査を講師にお招きし、学校と地域の「連携・協働」による教育の推進について研修を深めた。

十五年間の子どもを育ちを地域ぐるみで支援する地域協育ネットの仕組みの普及促進については、現在、各中学校区で取組が進められている。これまでに力を入れて取り組んできた幼保小連携及び小中連携においても幼保小中が行動レベルの目標と十五年間で育てる子ども像を共有した取組の推進が求められている。具体的には、生活規律の問題、学力の問題、中学校卒業時の進路の問題、生徒指導上の問題等に対応した取組である。校長としては、まずは動きをつくるのが大事である。動くことによって課題が明確となり、課題を解決するための取組を進めることで学校経営の質が向上していくと考えるからである。コミュニティ・スクールの推進しながら、地域協育ネットの構築と実践にも取り組んでいきたい。

全連小報告

全連小に参加して

岩国市立御庄小学校

三好 祐司



今年度の全連小全国研究大会は、さいたま市にて約三千人が参加し、開催された。大会主題が「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」であり、副主題を「共に生きる知恵を磨き、心結ぶ未来社会をつくる、誇り高き子どもを育成」として、二日間にわたる研究協議が熱心に行われた。

新任校長であり、さらに中学校校籍であった私にとって、全国の小学校の校長先生方と共に学べることは新鮮な体験であった。特に第一分科会の「経営ビジョン」では、子どもたちの未来を見据えた学校経営ビジョンの重要性を再認識させられた。来年度からコミュニティ・スクールに移行する自校の経営ビジョンを作成する上で、大変勉強になった。グループ討議で一緒になった校長先生方は、県は遠えどいかに教育の質を上げていくかという同じ思いをもった仲間であり、ここで協議は内容の深いものとなった。

大会の運営は円滑であり、参加者としてはまったくストレスは感じなかった。ただただ埼玉県校長会の水も漏らさぬきめ細かな運営に感嘆した次第である。来る山口大会でもしっかりとしたおもてなしをして、全国からの参加者を迎えたいと思ひ、会場を後にした。